

平成 26 年度 卒業生・修了生代表 答辞

長く続いた冬の寒さもようやく遠のき、春めいた暖かな日々到来が感じられる頃となりました。本日は、私たち卒業生・修了生のためにこのようなすばらしい式を挙げていただき、誠にありがとうございます。ここに卒業の日を迎えられたことを大変うれしく思います。また、ご多忙にもかかわらずご臨席くださった学長をはじめ、皆様に、卒業生・修了生一同、心より御礼申し上げます。

私たちは、平成 23 年 4 月に入学いたしました。東日本大震災の直後の混乱の中で、無事に横浜国立大学に入学でき、安堵したことを覚えています。慣れ親しんだ土地や家族、友人と離れ、新しい環境で生活を始めることへの不安と期待で胸をいっぱいにしなが、横浜国立大学での学生生活をスタートさせました。そして、4 年間、多くの人に支えられながら、学業やサークル活動、アルバイトなどさまざまなことに力を注ぎ、共に学び、遊び、信じあえる仲間に出会うことができました。学生として多くの経験をしたこの日々は、これからの私たちの人生にとってかけがえのない財産となることと思います。

私は、国際経済学と計量経済学について学ぶゼミナールに所属しておりました。ゼミナールでは、さまざまな経済現象の関連性について、自分で仮説を立て、実際にデータを集め、分析や考察を繰り返し、共同論文や卒業論文を執筆していきました。また、執筆した論文をもとに、他の大学のゼミナールと合同の論文発表会に積極的に参加し、多くの学生と意見を交換しました。このような活動を通じて、学業に対する私の考えは大きく変化しました。ゼミナールに所属する以前は、学業とは、与えられた課題に対して正解を出すことが最も大切だと考えていました。しかし、本来の学業とは、知りたいことについて、人から教わるだけではなく、自分で考察し納得できるようになることが重要ではないかと考えるようになりました。学業がやらされるものではなく、知的好奇心を満たしてくれるものだ気が付いたことは、社会人としての心構えにいい影響を与えてくれました。自ら課題を見つけ、解決策を考え出すという能動的な意思をもって働いていきたいと思ひます。こうした意識の変化を含め、横浜国立大学での経験のすべてが、今後の私を支え導いてくれるとても大切な宝物です。4 年間、さまざまな経験ができたことに感謝し、この経験を最大限これからの人生に活かしていきます。

4 月から私たちはそれぞれの新しい道を歩み始めます。自分の道を自らの意志と力で切り開いていくことにやりがいや喜びを感じることもあれば、社会の一員としての責任の大きさや学生とは異なる環境に戸惑い、悩むこともあるでしょう。困難に直面した時でも、かけがえのない青春時代を過ごした横浜国立大学での学びや仲間が、私たちの心のよりどころとなり、道しるべとなることが、4 年間の大学生活で得たなよりの誇りです。この横浜国立大学で受けた恵みを、自らの人生だけでなく、広く社会に役立て、日本ひいては世界を豊かにできる人間になることを目指していく所存です。

最後になりますが、私たちが充実した学生生活を送ることができたのも、先生方や事務職員の方々、そして家族など皆様のお力添えのおかげでございます。重ねて御礼申し上げます。横浜国立大学がこれからもすばらしい学府であり、またより一層の発展を遂げることを願ひ、つたないことばではありますが、答辞とさせていただきます。

平成 27 年 3 月 25 日
卒業生・修了生代表(経営学部)